

第65期報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

ホームページのご紹介

●TOPページ



<http://www.organo.co.jp/>



IRページ
最新のIR情報を提供しております。



製品情報ページ
水処理装置や水処理薬品などの各種取扱製品を掲載しております。



Ecologically Clean

IRカレンダー (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

※平成22年6月29日現在の予定です。

- 決算説明会
- 招集通知発送
- 第2四半期決算説明会
- 決議通知・報告書発送



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営企画部 TEL.03-5635-5111
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



オルガノ株式会社

企業コンセプト

Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは
かけがえのない地球の未来を見つめ
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- お客様にとって、最適な商品・技術・サービスを創造し、提供し続ける企業を目指す
- 株主様にとって、常に成長し、安定収益をあげる魅力的な企業を目指す
- 社員にとって、働き甲斐があり、誇りの持てる企業を目指す

株主の皆様へ



代表取締役社長兼CEO

橋本喜代志

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに当社の第65期事業年度（平成21年度）のご報告をさせていただきます。

1. 当連結会計年度の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、アジア向け輸出の回復や市況の改善により、年度後半からは緩やかな回復が見られたものの、全般的には昨年来の世界的な金融・経済危機の影響が残る中厳しい状況が続きました。特に当社グループの業績に大きな影響を与える設備投資については依然として低い水準に留まっております。

当社グループを取り巻く市場環境は、主要顧客である電子産業を中心に、国内外で設備投資が大幅に減少したことに加え、生産水準の低迷等を背景に消耗品交換やメンテナンスの削減・規模縮小が見られるなど、非常に厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは業務効率化による固定費の削減や各種コストダウンによる原価低減を徹底し、損益分岐点の引き下げに取り組むとともに、顧客への提案活動を中心としたソリューション営業の強化や、

省エネ・省コストや環境負荷低減ニーズの高まりに応える排水処理・回収技術の開発や営業の強化に取り組んでまいりました。

しかしながら、受注高につきましては、電力関連の大型案件の受注に成功したものの、電子産業を中心に設備投資が減少したことなどから、受注高587億円（前期比9.4%減）、売上高につきましては、受注の減少に加えメンテナンス・機能商品の売上の減少が影響し、535億円（同26.8%減）と前期と比較し大きく減少いたしました。

利益面につきましては、厳しい収益状況を踏まえ、各種の原価低減策に取り組むとともに、従業員や取引先の協力を得ながら人件費・外注費の削減などに努めた結果、当初予想より改善したものの、売上高の減少が大きく影響し、営業利益18億円（前期比39.7%減）、経常利益15億円（同45.3%減）、当期純利益6億円（同60.1%減）となりました。

なお、当期の期末配当金につきましては、当期の業績を踏まえ、中間配当金と同じく1株当たり4円とさせていただきます。これにより当期の年間配当金は1株当たり8円となります。

2. 次期の見通し

当社グループは産業全般・海外分野での営業体制を強化し、売上の拡大に取り組むとともに、コストダウン・固定費削減など引き続き収益の改善に努めてまいります。平成22年度の日本経済は全般的に緩やかな回復局面で推移すると見込まれるものの、設備投資の急回復は期待できず、厳しい状況が続くものと予想しております。

したがって、通期の業績見通しにつきましては、受注高600億円（当期比2.1%増）、売上高600億円（同12.1%増）営業利益25億円（同35.4%増）、経常利益23億円（同48.2%増）、当期純利益13億円（同101.2%増）を見込んでおります。

次期の配当金につきましては、業績の見通しを勘案し、当期と同じく1株当たり年間8円（中間配当金、期末配当金ともに1株当たり4円）を予定しております。引き続き我慢の経営を続けてまいりますので、株主の皆様におかれましては何卒ご了承賜りますようお願い

いたします。

3. 今後の経営方針

わが国経済は、国内外の在庫調整の進捗やアジア諸国向けの輸出・生産の改善により、回復に向かいつつあります。企業の設備過剰感は依然として高水準であるものの解消されつつあり、設備投資も持ち直していくと見られています。海外においても、欧州で発生した財政不安が実体経済に悪影響を与える懸念はあるものの、アジア地域では内需を中心に力強い成長が持続しており、今後も設備投資は堅調に推移していくと見込まれています。

また、世界各国が打ち出している環境問題への施策を通じて新たな産業の創出が見込まれたり、各企業の環境負荷低減や省エネへの対応が積極的に進められるなど、水・環境に深くかかわる当社にとって国内外でビジネスチャンスが広がりを見せています。

当社グループは、第65期に大幅な業績悪化に直面しましたが、このような事業環境の変化に対応し、売上・利益水準を早期に回復するため、事業構造の改革と企業体質の改善を実行する、平成22年度から始まる3か年の中期経営計画を策定いたしました。本中期計画では、「Customer Value創造企業」を経営ビジョンとして掲げ、お客様のあらゆるニーズに応えることはもちろん、市場志向による積極的なビジネス拡大を進め、技術・サービスとコストの両面からお客様の価値と満足を創造する企業を目指してまいります。

4. 最後に

第66期事業年度（平成22年度）は、中期経営計画の達成に向けた第一歩を踏み出す一年と位置づけており、事業構造改革と体質改善を進め、グループ社員一同業績と企業価値の向上に努めてまいります。

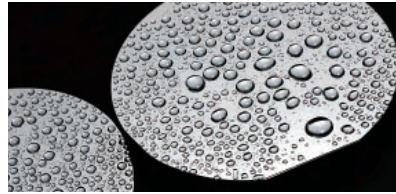
株主の皆様におかれましては、今後ともますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

平成22年6月

▶ プラント事業

電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部環境へ排水を出さないクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の処理システムや、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。



電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所における主要水処理設備である復水ろ過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持。国内のみならず東南アジアや米国の発電所向けにも水処理装置を納入するなど、その技術力の高さを証明しています。



上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。その処理を担う浄水場では沈でろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理など、下水処理場では生物処理などオルガノの得意な技術が活用されています。



医薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でバイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供します。



▶ ソリューション事業

メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良提案を行います。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

水処理アウトソーシング受託事業

■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。

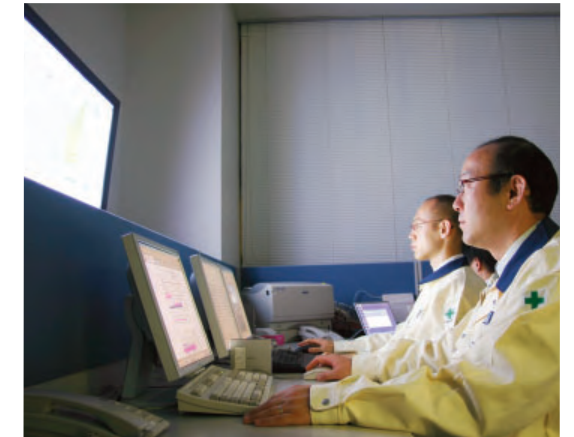


■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、お客様の水処理装置の運転状況を遠隔監視しており、異常があった際の早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データから傾向変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブル防止に貢献します。



■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

▶ **機能商品事業**

標準製品

純水装置はもちろん、水に新たな機能を付加する機能水製造装置など、短納期・低コストで豊富な商品ラインアップを有しており、電子産業から食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで、ニーズに合わせて広く用いられています。



キャビネットタイプ純水装置 PROシリーズ

超純水製造装置 SDAシリーズ

水処理薬品

冷却効果を高め省エネにつなげる冷却水処理薬品やボイラを効率的に運転するための処理剤、廃棄物の削減につながる排水処理剤など、水処理用の多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。



食品加工材

食品加工材の分野では、主にハムや即席めんの改良に用いられるリン酸塩が国内トップシェアの実績。その他、第三のビールに使用されるエンドウたん白をはじめ、様々な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しております。オルガノの技術は豊かな食文化の創造にも貢献しています。



イオン交換樹脂

イオン交換樹脂専用WEBサイトリニューアル

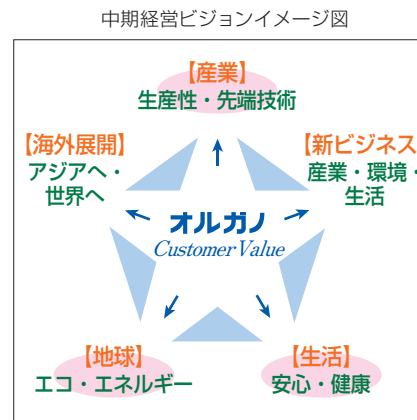
当社の基幹材であるイオン交換樹脂の専用WEBサイト「アンバーライトサイト」(<http://ier.organo.co.jp/>)をこのたびリニューアルいたしました。それに伴い、お問合せが多かった銘柄ごとの情報や事業分野ごとの適用例などに関する情報を更に充実させ、お客様のニーズに応える構成にしました。WEBサイトを通じて、多様化しているお客様からのご要望を的確につかみ、最適なソリューションをご提案することで、ビジネスの拡大を進めてまいります。



平成22年4月より、3ヵ年の中期経営計画をスタート

中期経営ビジョン
人と地球の未来に貢献する“Customer Value 創造企業”

■オルガノグループは、当社が提供する製品・技術・サービスを通じ、お客様に貢献することで、人（産業と生活）と地球の未来に貢献いたします。より多くのお客様にオルガノグループを選んでいただくために、海外や新ビジネスにチャレンジするとともに、市場とお客様に真剣に向き合い、製品・技術・サービスを磨き、お客様のニーズに応えることはもちろん、お客様の価値と満足（“Customer Value”）を創造する企業を目指します。



中期経営計画基本方針／経営目標

1. プラント・ソリューション・機能商品3事業の強化・拡大
2. 海外部門の強化
3. 経営・事業基盤の強化

【平成24年度経営目標】

売上高	750億円
営業利益	50億円

【将来目標】

売上高	1000億円
営業利益	100億円

排水中の窒素化合物を高速で処理する 「好気グラニュール法」を開発

工場や家庭からの排水は、その多くが微生物の代謝を利用して処理されています。この微生物は特殊な条件下でグラニュールと呼ばれる0.2~5mmほどの粒状の塊を形成します。これまでは主にメタン発酵のような嫌気（=酸素が存在しない）処理において利用されていたものの、好気（=酸素が存在する）条件下での適用は困難でした。

オルガノは、グラニュール化を促進する添加剤の開発や反応槽の設置によって、好気条件下での連続処理によるグラニュール化に世界で初めて成功。従来の3~5倍の速度での窒素化合物処理を実現しました。

処理プロセスの高効率化によって、装置容量を従来法の3分の1程度までコンパクト化することができ、設置コストの削減が可能となります。



グラニュール

開発者インタビュー

好気グラニュール法を開発した担当者に話を聞きました。

—グラニュールって何ですか？

粒状をあらわす単語で、水処理分野では、微生物の自己造粒作用などにより形成された粒状の汚泥（granular sludge）を指します。グラニュールの身近な例としては、グラニュー糖（granulated sugar）があります。

—なぜグラニュールだと高速で処理できるのですか？

窒素含有排水の処理には、窒素の一形態であるアンモニウムイオンを硝酸イオンへと酸化する「硝化」、脱窒菌の働きにより硝酸イオンを窒素ガスに還元する「脱窒」、余剰の有機物を処理する「有機物酸化」の3つの工程があります。つまり、窒素は複数種の微生物の働きによって処理されるのです。今回開発した好気グラニュール法では、これら複数種の微生物を一つの粒子（グラニュール）内に共存させています。反応槽内に微生物を高密度に保持できること、またグラニュールの水中での沈降分離性が高いことから、従来法に比べ高速で処理することが可能になりました。

—今後の展開は？

窒素化合物を含む排水を大量に排出する電子産業分野をはじめ、化学工場や食品工場などをターゲットとして、平成24年度に50億円程度の売上を目指します。



担当者 開発センター第二開発部
長谷部吉昭

従来よりも高速処理を可能とする 加圧浮上装置を開発中

加圧浮上処理は、薬品を用いた一般的な凝集沈澱法では処理が困難な、沈降しにくい浮遊物質を微細な気泡を用いて浮上させることで分離除去する技術であり、工場の用水処理や排水処理などに多く採用されています。オルガノでは従来の3~4倍の速度での処理を可能とする新たな加圧浮上装置を開発中であり、現在その最終段階です。処理の高速化により装置の設置面積を小さく、建設費を低減します。

なお、開発の一環として、昨年秋より茨城県企業局と高速加圧浮上装置の処理性能確認の共同研究を行っています。共同研究は霞ヶ浦を水源とする浄水場の水処理方法を改善する技術確立を目的としていますが、浄水処理が困難な水質で知られている霞ヶ浦の水に対応できるシステムを開発することにより、水道事業体のみならず民間工場の用水処理・排水処理への展開も積極的に図ります。



高速加圧浮上実験装置外観

当社社員執筆による「水処理の本」発刊

当社社員執筆による「トコトンやさしい水処理の本」（開発センター編）が昨年12月に日刊工業新聞社から発刊されました。

宇宙から飛来する「ニュートリノ」の観測、工業排水からのレアメタル回収、宇宙空間での排水再利用など、様々な分野で水処理技術は活躍しています。この本では、水をみがき上げる技術、水をよみがえらせる技術を中心に、水処理技術の入門編としてわかり易く解説しています。

書籍情報

- 編者：オルガノ(株)開発センター
- 出版社：日刊工業新聞社
- 図書コード：ISBN 978-4-526-06374-9
- 定価（本体1,400円+税）
- ※ 全国各書店又は日刊工業新聞社（電話 03-5644-7410）でお買い求めください。



食品事業を手掛けるオルガノフードテック社員執筆による「トコトンやさしい味の本」も発売中です
図書コード：ISBN 978-4-526-05914-8

連結貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期末 (平成22年3月31日現在)	前期末 (平成21年3月31日現在)	比較増減
資産の部			
流動資産	45,422	54,512	△ 9,089
固定資産	26,042	27,463	△ 1,421
有形固定資産	22,569	23,504	△ 935
無形固定資産	431	505	△ 73
投資その他の資産	3,040	3,453	△ 412
資産合計	71,464	81,975	△ 10,511
負債の部			
流動負債	24,042	32,697	△ 8,655
固定負債	7,672	9,700	△ 2,028
負債合計	31,715	42,398	△ 10,683
純資産の部			
株主資本	39,543	39,479	63
資本金	8,225	8,225	-
資本剰余金	7,508	7,508	-
利益剰余金	24,120	24,051	68
自己株式	△ 309	△ 304	△ 5
評価・換算差額等	△ 133	△ 220	86
少数株主持分	339	318	21
純資産合計	39,749	39,577	172
負債純資産合計	71,464	81,975	△ 10,511

◆**流動資産**
現金及び預金は増加したものの、売上債権の減少などにより9,089百万円減少しました。

◆**流動負債**
支払手形及び買掛金の減少などにより8,655百万円減少しました。

◆**固定負債**
長期借入金の減少などにより2,028百万円減少しました。

◆**純資産の部**
利益剰余金、評価・換算差額等の増加などにより172百万円増加しました。

連結損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	比較増減
売上高	53,515	73,118	△ 19,603
売上原価	39,593	56,171	△ 16,578
売上総利益	13,921	16,947	△ 3,025
販売費及び一般管理費	12,076	13,886	△ 1,810
営業利益	1,845	3,060	△ 1,214
営業外収益	177	178	△ 0
営業外費用	472	402	70
経常利益	1,551	2,836	△ 1,285
特別利益	109	201	△ 92
特別損失	100	289	△ 188
税金等調整前当期純利益	1,560	2,748	△ 1,188
法人税、住民税及び事業税	689	1,305	△ 615
法人税等調整額	207	△ 224	431
少数株主利益	16	49	△ 32
当期純利益	646	1,617	△ 971

◆**売上高**
電子産業関連の大型案件を中心に国内外で設備投資が大幅に減少したこと、産業全般にわたる生産水準の低迷を背景にメンテナンス、イオン交換樹脂及び水処理薬品の売上が減少したことなどから前期に比べ19,603百万円減少しました。

◆**営業利益・経常利益**
固定費の削減や各種のコストダウンが寄与したものの売上の減少が大きく影響したことなどから前期に比べ減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,712	△ 118
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 194	△ 3,791
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,492	3,734
現金及び現金同等物に係る換算差額	53	△ 53
現金及び現金同等物の増減額	5,078	△ 230
現金及び現金同等物の期首残高	7,551	7,781
現金及び現金同等物の期末残高	12,630	7,551

◆**営業活動によるキャッシュ・フロー**
8,712百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は売上債権の減少によるものであり、主な支出は仕入債務の減少によるものです。

◆**投資活動によるキャッシュ・フロー**
194百万円の資金流出となりました。主な資金の増加は定期預金の減少によるものであり、主な支出は有形固定資産の取得によるものです。

◆**財務活動によるキャッシュ・フロー**
3,492百万円の資金流出となりました。主な支出は借入金の減少及び配当金の支払によるものです。当期末の現金及び現金同等物は前期末と比べて5,078百万円増加し、12,630百万円になりました。

連結株主資本等変動計算書(要旨) (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位: 百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成21年3月31日残高	8,225	7,508	24,051	△ 304	39,479	△ 220	318	39,577
当期中の変動額								
剰余金の配当	-	-	△ 576	-	△ 576	-	-	△ 576
当期純利益	-	-	646	-	646	-	-	646
自己株式の取得	-	-	-	△ 7	△ 7	-	-	△ 7
自己株式の処分	-	-	△ 0	2	1	-	-	1
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	86	21	108
当期中の変動額合計	-	-	68	△ 5	63	86	21	172
平成22年3月31日残高	8,225	7,508	24,120	△ 309	39,543	△ 133	339	39,749

単体財務情報

■貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期末 (平成22年3月31日現在)	前期末 (平成21年3月31日現在)	比較増減
資産の部			
流動資産	35,118	45,726	△ 10,607
固定資産	24,158	25,332	△ 1,174
負債の部			
流動負債	19,602	29,744	△ 10,141
固定負債	6,896	8,792	△ 1,895
純資産の部			
株主資本	32,646	32,446	199
評価・換算差額等	131	75	55
総資産	59,277	71,059	△ 11,781

■損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	比較増減
売上高	36,070	52,075	△ 16,004
売上原価	28,061	42,086	△ 14,025
売上総利益	8,009	9,988	△ 1,979
販売費及び一般管理費	7,588	9,319	△ 1,731
営業利益	420	668	△ 247
営業外収支	745	750	△ 5
経常利益	1,165	1,419	△ 253
特別収支	△ 123	102	△ 225
税引前当期純利益	1,042	1,522	△ 479
法人税等	260	301	△ 40
当期純利益	782	1,221	△ 438

(注) 本報告書は決算短信の数値、文章を基に作成しております。その後公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては当社ホームページの掲載資料などにてご確認ください。

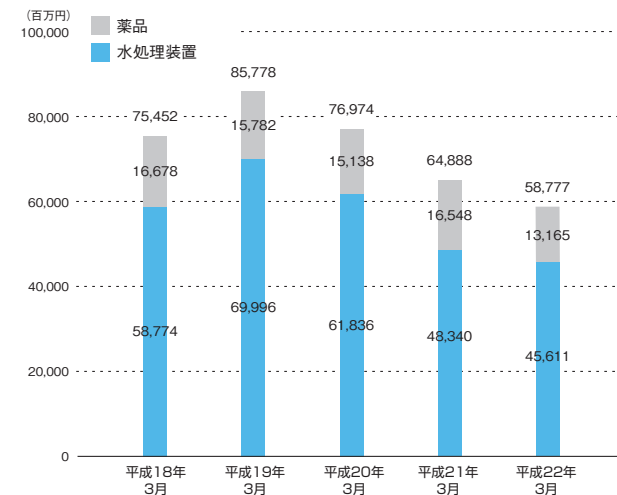
【水処理装置事業】

当事業におきましては、電力関連の大型案件の受注に成功したものの、電子産業関連の大型案件の売上が減少したこと、メンテナンス・機能商品の売上が減少したことから、受注高45,611百万円（前期比5.6%減）、売上高40,338百万円（同28.7%減）となりました。また、利益面につきましては、固定費の削減や各種のコストダウンが寄与したものの売上が大きく減少したことから営業利益1,046百万円（同43.7%減）となりました。

【薬品事業】

当事業におきましては、産業全般にわたる生産水準の低迷やメンテナンスの減少により、イオン交換樹脂及び水処理薬品の売上が減少したことに加え、食品部門の売上が減少したことなどから、受注高13,165百万円（前期比20.4%減）、売上高13,176百万円（同20.5%減）、営業利益799百万円（同33.5%減）となりました。

■ 受注高

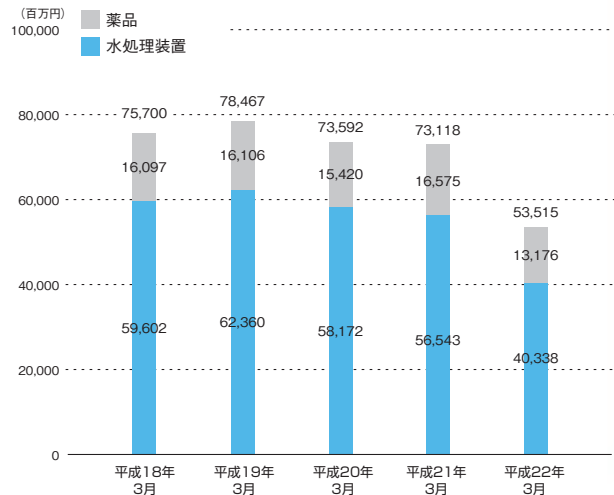


■ セグメント別業績

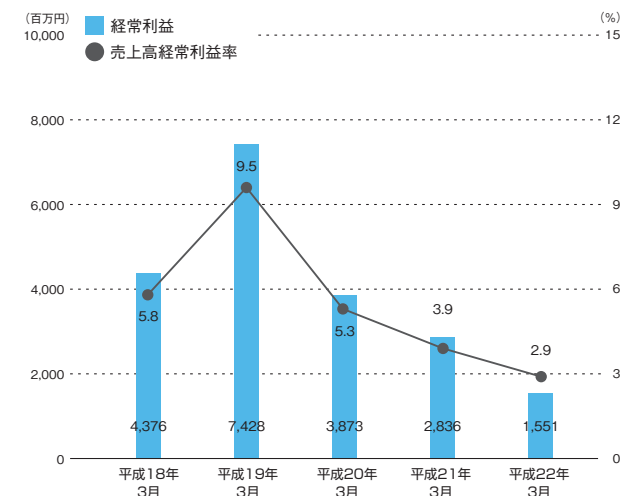
(単位：百万円)

科目	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	比較増減
■ 受注高			
水処理装置事業	45,611	48,340	△ 2,728
薬品事業	13,165	16,548	△ 3,382
■ 売上高			
水処理装置事業	40,338	56,543	△ 16,204
薬品事業	13,176	16,575	△ 3,398
■ 営業利益			
水処理装置事業	1,046	1,858	△ 812
薬品事業	799	1,201	△ 402

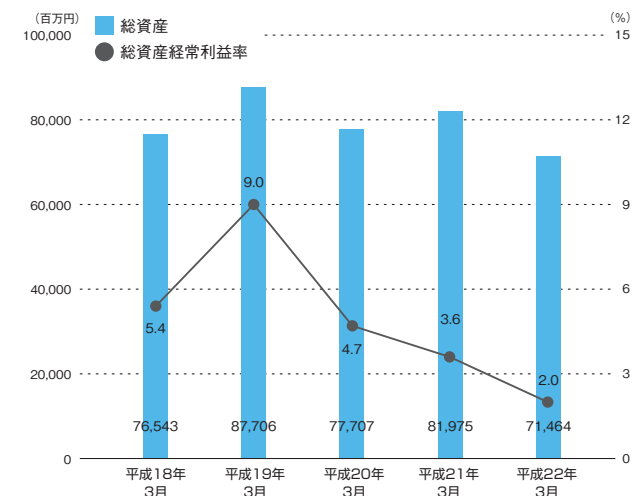
■ 売上高



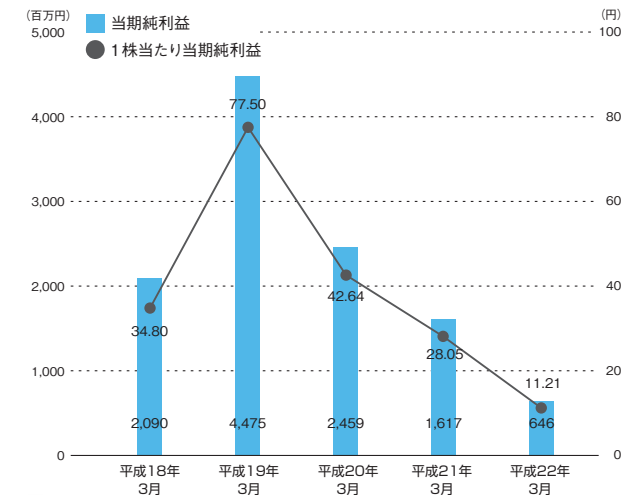
■ 経常利益／売上高経常利益率



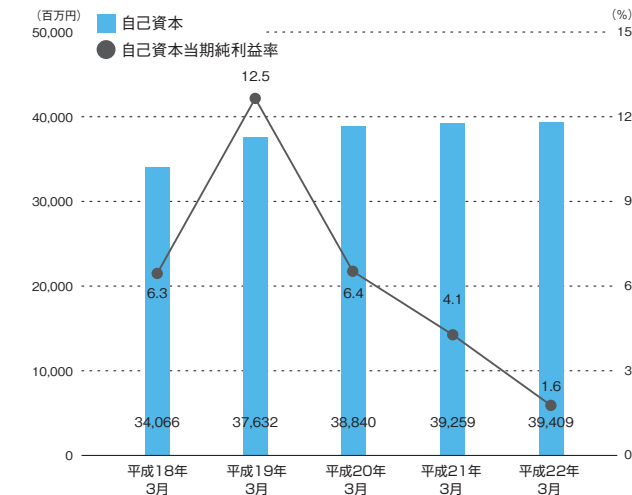
■ 総資産／総資産経常利益率(ROA)



■ 当期純利益／1株当たり当期純利益



■ 自己資本／自己資本当期純利益率(ROE)



会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)
 創業 昭和21年5月1日
 資本金 8,225,499,312円
 従業員数 連結 1,648名 (単体 663名)
 事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631
 東京都江東区新砂1丁目2番8号
 開発センター 相模原
 工場 つくば、いわき
 事業所 長崎
 支店 北海道、東北、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノ北海道(株) (海外) Organo (Asia) Sdn.Bhd.
 オルガノ東北(株) 奥加諾(蘇州)水処理有限公司
 オルガノ東京(株) 奥璐佳瑞科技股份有限公司
 オルガノ中部(株)
 オルガノ関西(株)
 オルガノ九州(株)
 オルガノプラントサービス(株)
 オルガノフードテック(株)
 オルガノアクティ(株)

取締役・監査役・執行役員 (平成22年6月29日現在)

取締役社長兼CEO 橋本喜代志
 取締役兼専務執行役員 鬼頭和夫
 取締役兼常務執行役員 近藤昭夫
 取締役兼常務執行役員 中村聖和
 取締役兼常務執行役員 力武一夫
 取締役兼常務執行役員 奥園修一
 取締役兼執行役員 浦井紀久
 取締役兼執行役員 渡辺大輔
 取締役 山村正春
 常勤監査役 小柴勲
 監査役 川村克彦
 監査役 高德宗忠
 執行役員 小暮茂
 執行役員 峯下幹雄
 執行役員 伊藤智章
 執行役員 砂岡好夫
 執行役員 古内力
 執行役員 羽多野敦

(注1) 橋本喜代志及び鬼頭和夫は代表取締役であります。
 (注2) 川村克彦及び高德宗忠は社外監査役であります。

■ その他グループ会社

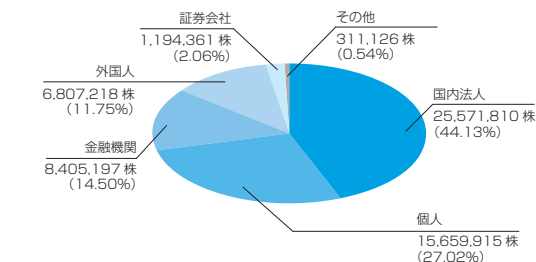
(国内) オルガノ山下薬品(株) (海外) Organo (Singapore) Pte Ltd
 オルガノ・ハイテック(有) Organo (Thailand) Co., Ltd.
 環境テクノ(株)
 オルガノエコテクノ(株)
 東北電機鉄工(株)

株式の状況

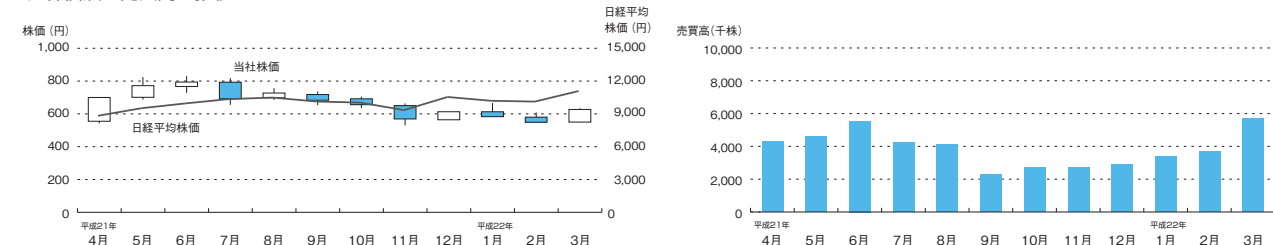
- 発行可能株式総数 126,960,000 株
- 発行済株式総数 57,949,627 株
- 株主総数 8,952 名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
ザバンク オブ ニューヨーク-ジャスディック トリーティー アカウント	2,219	3.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,651	2.84
株式会社みずほ銀行	1,230	2.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	848	1.46
ザバンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジャスデツク アカウント	792	1.36
みずほ信託銀行株式会社	775	1.33
明治安田生命保険相互会社	549	0.94
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	427	0.73
ザバンク オブ ニューヨーク トリーティー ジャスデツク アカウント	418	0.72

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 単元株式数 1,000株
 公告掲載方法 電子公告
 公告掲載アドレス <http://www.organo.co.jp/>
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 中央三井信託銀行株式会社
 連絡先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
 電話0120-78-2031 (フリーダイヤル)
 受付窓口 中央三井信託銀行株式会社 本店・全国各支店
 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
 ホームページアドレス http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

株式に関する諸手続きのお申し出先について

- 住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続きにつきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。
- 証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行にお申し出ください。
- 未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である中央三井信託銀行の全国各支店でお取り扱いいたします。